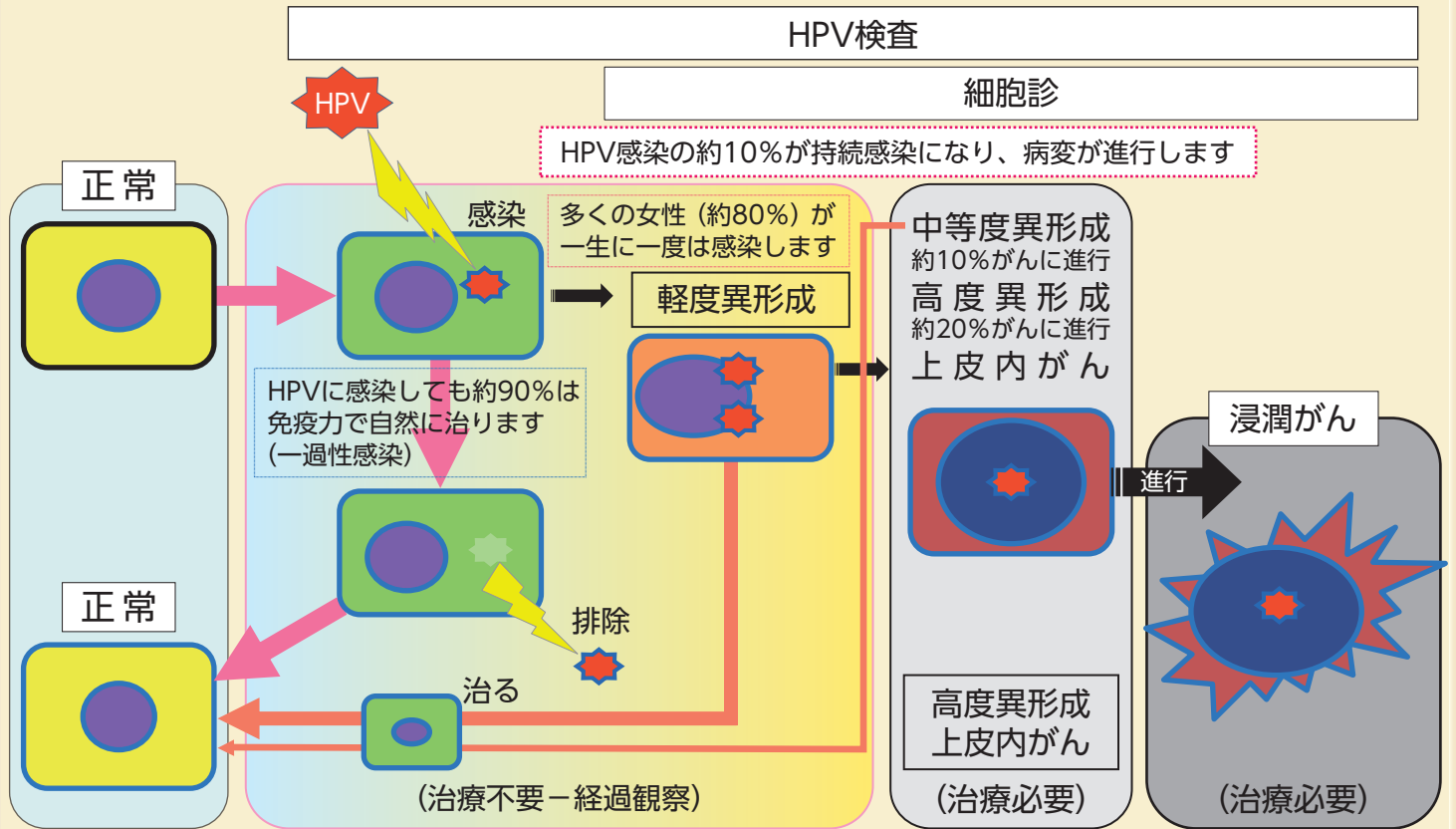


HPV感染と子宮頸がんに至るまでの病理学的変化



「細胞診結果」

陰性(NILM) ⇒ ASC-US(軽度病変疑い) ⇒ 軽度病変(LSIL) ⇒ 高度病変(HSIL) ⇒ がん(SCC)

HPVと子宮頸がん

- HPVテストが陽性とは、子宮頸がんの原因となるハイリスクHPV13種類(16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68型)のいずれかの感染があることを示している。
- ほとんどの成人女性(約80%)が一度はHPVに感染し、約90%は自然に消える。
- HPVは皮膚・粘膜の接触で伝搬する。
- HPVは健康な女性にも存在しており、細胞診で異常がなければ治療の必要がない。
- 免疫や喫煙などの要因が加わり、高度異形成やがんに進行する。
- 子宮頸がんはありふれたウイルス(HPV)による稀な合併症である。

子宮頸がん検診(細胞診・HPV併用)の結果

異常なし(NILM)		軽度病変疑い(ASC-US)		軽度病変(LSIL) 高度病変疑い(ASC-H) 高度病変(HSIL) 扁平上皮癌(SCC) 腺癌疑い(AGC) 腺癌(Adenocarcinoma) その他の異常
HPV陰性	HPV陽性	HPV陰性	HPV陽性	
3年後検診	1年後検診	精密検査(コルポ下生検)		

細胞診・HPVテスト併用検診の例

